

令和7年度東京歯科大学水道橋病院 医療連携報告会・懇親会 プログラム・抄録集

日時：令和8年3月26日（木）19：30～

会場：東京歯科大学水道橋校舎本館12階講義室A

「臨床における最新のトピックス」

講演①19：35～ 歯科用局所麻酔剤4%アルチカイン製剤「セプトカイン®配合注カートリッジ」の特徴と臨床応用
-有効性と安全性を踏まえた適切な局所麻酔薬選択-

講演②19：55～ デジタルデンチャーの臨床応用と今後の可能性

講演③20：15～ 歯科診療における抗菌薬適正使用の責務
-AMR対策と「手引き」に基づく処方戦略-

◆ 懇親会 20:40～ 会場：東京歯科大学水道橋校舎西棟1階ラウンジ

令和7年度東京歯科大学水道橋病院
医療連携報告会・懇親会

【医療連携報告会】

日時：令和8年3月26日（木）19：30～

会場：東京歯科大学水道橋校舎本館12階講義室A

テーマ：「臨床における最新のトピックス」

司会：副病院長・地域医療連携委員会委員長 笠原 清弘

19：00～ 受付開始

19：30～ 開会挨拶 水道橋病院長 田口 円裕

19：35～ 講演① 「歯科用局所麻酔剤4%アルチカイン製剤
『セプトカイン®配合注カートリッジ』の特徴と臨床応用
-有効性と安全性を踏まえた適切な局所麻酔薬選択-」
歯科麻酔学講座 教授 松浦 信幸

19：55～ 講演② 「デジタルデンチャーの臨床応用と今後の可能性」
老年歯科補綴学講座 准教授 竜 正大

20：15～ 講演③ 「歯科診療における抗菌薬適正使用の責務
-AMR対策と「手引き」に基づく処方戦略-」
口腔顎顔面外科学講座 講師 吉田 秀児

20：35～ 閉会挨拶 副病院長・地域医療連携委員会委員長 笠原 清弘

【懇親会】

時間：同日 20：40～21：30（終了予定）

会場：東京歯科大学水道橋校舎西棟1階ラウンジ

～ 講演 ① ～

歯科用局所麻酔剤 4%アルチカイン製剤「セプトカイン®配合注カートリッジ」の特徴と臨床応用-有効性と安全性を踏まえた適切な局所麻酔薬選択-

東京歯科大学
歯科麻酔学講座 教授 松浦 信幸

2025年1月21日、わが国で歯科用局所麻酔剤 4%アルチカイン製剤「セプトカイン®配合注カートリッジ」が発売された。歯科用局所麻酔剤としては、2002年に発売された 3%メピバカイン塩酸塩製剤「スキャンドネスト®カートリッジ 3%」以来、約 23 年ぶりの新たな選択肢である。アルチカインは、すでにドイツ、スイス、カナダ、英国などで長年使用されており、海外では日常臨床に広く普及している局所麻酔剤の一つである。今回、日本でも使用可能となったことは、歯科臨床における局所麻酔剤の選択肢を広げるうえで大きな意義を有する。

本製剤は、4%アルチカイン塩酸塩にアドレナリン 1:100,000 を含有する歯科用局所麻酔剤である。これまでわが国では、2%リドカイン塩酸塩製剤、3%プロピトカイン塩酸塩製剤、3%メピバカイン塩酸塩製剤が主に用いられてきたが、アルチカインの導入により、症例や処置内容、求められる麻酔の質に応じた薬剤選択がより柔軟に行えるようになった。局所麻酔剤の選択は、単なる慣習に基づくものではなく、各薬剤の薬理学的特性や患者背景を踏まえて判断すべきものであり、その重要性は今後さらに高まるものと考えられる。

アルチカインは、浸潤麻酔において良好な麻酔効果が期待されるほか、麻酔発現の速さや組織浸透性の高さの点でも注目されている。そのため、確実な麻酔効果が求められる場面、追加麻酔を可能な限り減らしたい場面、あるいは治療をより円滑に進めたい場面などにおいて、有用性が期待される。一方で、使用にあたっては、濃度、含有アドレナリン量、適応・禁忌、使用上の注意、既存製剤との相違点を十分に理解したうえで、適切に用いる必要がある。特に、患者の全身状態、年齢、基礎疾患、局所麻酔剤の投与量、歯科治療の内容などを踏まえた慎重な判断が求められる。

本講演では、歯科用局所麻酔剤 4%アルチカイン製剤の特徴をわかりやすく整理し、既存の局所麻酔剤との相違点、有効性と安全性、さらに臨床現場における

具体的な応用について概説する。局所麻酔剤を適切に選択する意義をあらためて確認するとともに、患者にとってより安全で快適な歯科治療の提供につながる実践的視点を共有したい。

～ 講演 ② ～

デジタルデンチャーの臨床応用と今後の可能性

東京歯科大学

老年歯科補綴学講座 准教授 竜 正大

近年、歯科医療分野ではデジタル技術の導入が急速に進み、CAD/CAM 技術を応用した補綴治療が普及してきています。クラウンやブリッジ領域においてはすでに一般的となっているデジタルワークフローですが、総義歯領域においてもデジタルデータを基に設計・製作を行う「デジタルデンチャー」が実用化され、新たな義歯製法として注目されています。2025年12月には「3次元プリント有床義歯」が保険導入され、デジタル技術を応用した義歯治療は今後さらに臨床の現場に普及していくことが期待されています。

私どもはこれまで、CAD/CAM 技術を応用した総義歯の研究および臨床応用に取り組んできました。デジタルデンチャーは、口腔内あるいは模型の形態情報をデジタルデータとして取得し、コンピュータ上で設計を行った後、切削加工や積層造形などの方法によって義歯を製作する新しいワークフローを特徴としています。従来の総義歯製法においては、模型製作後に人工歯排列や重合などといった多くの技工ステップを経て製作されてきましたが、デジタルデンチャーではこれらの一部をデジタル化することで、製作過程の効率化が可能となります。通院回数の削減が期待でき、設計データの保存による再製作も容易であるといった特徴も有し、これらは超高齢社会を迎えた我が国における義歯治療において大きなメリットとなると考えられます。

一方で、デジタル技術は良い形態も悪い形態もそのまま再現されるという特徴も有するため、デジタルデンチャーの臨床応用に際しては、従来の義歯製作とは異なる臨床手順や材料特性を理解することも重要です。

本講演では、当院におけるデジタルデンチャーの臨床例を紹介するとともに、保険導入された3次元プリント有床義歯の実際の臨床ステップや特徴について概説します。また、近年の技術進歩を踏まえ、デジタル技術を応用した義歯治療の現状と今後の可能性についても紹介する予定です。日常臨床における義歯治療の新たな視点について考える機会となれば幸いです。

～ 講演 ③ ～

歯科診療における抗菌薬適正使用の責務

－AMR 対策と「手引き」に基づく処方戦略－

東京歯科大学

口腔顎顔面外科学講座 講師 吉田 秀児

近年、薬剤耐性（AMR）対策は重大な国際的課題であり、2050年には全世界で年間1,000万人が薬剤耐性菌により死亡すると推定されています。この薬剤耐性菌が密かに感染拡大しているということから「パンデミックサイレント」と呼ばれています。これを受け、本邦でも「AMR対策アクションプラン」による合計6つの分野に関連する目標が設定され、それらに基づいた適正な抗菌薬使用が強く求められています。

医科領域では、急性気道感染症や急性下痢症などにおける不適切な抗菌薬使用が問題視されておりその対応がなされています。一方、歯科領域において観血処置後や歯科疾患治療における抗菌薬処方 は日常的ですが、漫然とした使用は耐性菌を選択的に増殖させ、患者の予後や公衆衛生に深刻な影響を及ぼす可能性があります。歯科における経口抗菌薬の使用量は医科分野全体の約10%を占めますが、その内訳は問題視されています。特に、経口吸収率が低く、耐性菌を誘導しやすい第3世代セファロsporin系抗菌薬の使用割合が医科よりも高い点は、早急に改善すべき課題であります。令和5年度版歯科医師国家試験出題基準においてもAMR対策は必修知識として明記されており、今や歯科医師にとって避けては通れない「標準知識」となっています。1928年にペニシリンを発見したアレクサンダー・フレミングは、ノーベル賞受賞スピーチにおいて、不適切な使用が耐性菌を生み、その結果として命を落とす患者が出た場合、その責任は「薬を正しく使わなかった人間」にあると警告しました。この警告は、現代の我々歯科医師にも向けられていると自覚しなければなりません。

抗菌薬は強力な武器ではありますが、万能ではありません。それぞれの薬剤特性を理解し、適切な疾患に、適切な期間投与する責任があると考えます。本講演では、厚生労働省発信の「抗微生物薬適正使用の手引き（歯科編）」を軸に、第一選択薬としてのペニシリン系の重要性や、外科的処置を優先すべき病態の判断など、歯科医師が遵守すべき適正使用の指針について具体的に解説します。薬剤耐性菌拡大を阻止するため、歯科医師が果たすべき役割について再確認したいと思います。

～ ご 案 内 ～

【診療情報提供書（紹介状）について】

「診療情報提供書（紹介状）」ご入用の際には、恐れ入りますが下記までご連絡のほどお願いいたします。

東京歯科大学水道橋病院 地域医療連携室
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-9-18
TEL:03(5275)1732(ダイヤルイン)、FAX:03(3262)3215
E-mail:renkeish@tdc.ac.jp

【各科へのお問い合わせ電話番号について】

診療のお約束やお問い合わせは、各科直通ダイヤルインにおかけ下さいますようお願い申し上げます。

受付時間：平日 8:45～17:30 土曜 8:45～13:00

保 存 科	03(5275)1721 03(5275)1722	補 綴 科	03(3262)3425 03(3262)3426
※口 腔 外 科 ※(神経修復外来)	03(5275)1725 (指定医あり) 03(5275)1726 (指定医なし)	※矯 正 歯 科	03(5275)1724
小 児 歯 科	03(5275)1723	※スペシャルニーズ歯科・ ペインクリニック科	03(5275)1795
※歯 科 麻 酔 科	03(5275)1851	※口腔インプラント科	03(5275)1760
※健康スポーツ歯科	03(5275)1721 03(5275)1722	※摂食嚥下リハビリテーション科	03(5275)1732
内 科	03(5275)1926	※眼 科	03(5275)1856
※放射線科 (CT 撮影)	03(5275)1953	医 事 課 (受 診 案 内)	03(5275)1932

※ 初診の予約を必要としている診療科

《MEMO》